

| | | |
|---------|--|---|
| 課 題 | 鷹巣・国見地区に移植した越前水仙の草丈に関する試験 | |
| 担 当 者 | 藤井 美希 別司 季彦 | |
| 目 的 | 鷹巣・国見地区における平坦地の水仙は草丈が短いため、切り花品質が劣り、十分な出荷本数を確保できない現状にある。これは、新植後、年数が経過しており、土壌に肥料成分が少なく、また、灌水も自然の降雨に頼っているため、生育期の肥効と土壌水分の不足が原因と考えられる。そこで、本試験では、肥料の種類と施用時期の切り花品質に及ぼす影響を明らかにする。 | |
| 供 試 品 種 | 越前水仙（ニホンスイセン） | |
| 試験区構成 | 1区 磷硝安加里 S604 3.13kg/a（9月中旬と10月上旬の2回施用） 2区 磷硝安加里 S604 6.25kg/a（9月中旬の1回施用） 3区 ハイポネックス（15-30-15）1,000倍希釈液 （9月中旬から7日ごとに1回で計6回施用） 注1：各肥料は窒素分量で1.0kg/aに調整 4区 無処理 | |
| 区制及び面積 | 2区制 1区 3㎡（10株調査） | |
| 耕 種 概 要 | 栽培条件 | 南菅生町の露地圃場 黒寒冷紗（遮光率95%）を9月上旬から9月下旬に畝表面に被覆し、地温の低下を図る。 雑草の生育を抑えるため、9月上旬に草刈を行う。 |
| | 栽植密度 | 7,000～10,000球/a |

結果及び考察

1 生育状況

各区において区制の通りに施肥及び寒冷紗の被覆を行った（表1参照）。寒冷紗の被覆区において、9月24日に地表面から約1～2cmの出芽を確認し、10月1日は、地表面から約3～4cmの出芽を確認した。10月26日には、無施肥区は地表面から約10cmの草丈であるのに対し、施肥のみの区では地表面から約20～30cm、寒冷紗の被覆区では地表面から約30～40cm以上の草丈になった（図1参照）。その後も生育を続け、11月上旬に花芽（ヤリ）を確認し、12月～1月上旬に草丈の調査を行った。

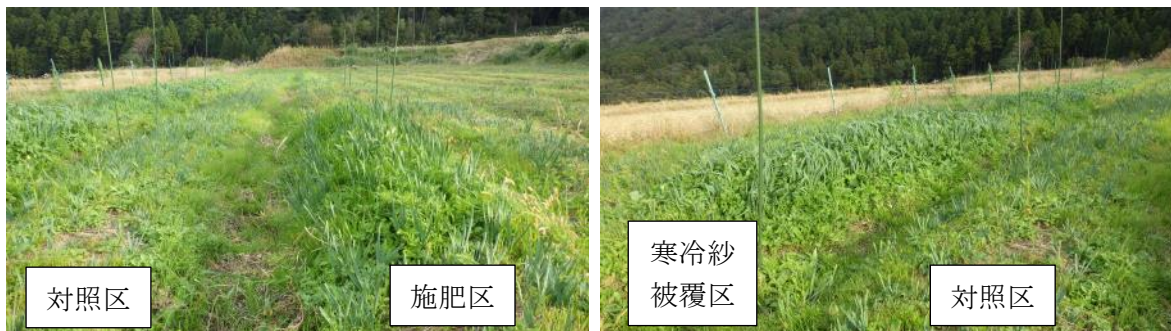


図1. 生育の様子（10月26日）

2 調査結果（図2、表2参照）

- 1) 施肥方法については、9月中旬と10月上旬の2回に分けた化成肥料の施用（1区-1）及び、9月中旬から液肥を1週間おきの施用を行った区（3区）の葉長は、慣行区（4区-1）と比較して1.1倍と若干の伸長効果があったのに対し、9月中旬に1回の化成肥料の施用を行った区（2区-1）では、慣行区（無施肥）と比較して1.6倍葉長が長く、最も草丈の伸長効果が高かった。出芽初期（芽の長さが地表から1～2cmの時）に多く窒素成分を施用することが、最も草丈の伸長効果があると考えられた。
- 2) 寒冷紗を被覆した区について、無施肥で寒冷紗を被覆した区（4区-2、3）は慣行区（4区-1）と比較して葉長が約1.2倍の伸長であったが、施肥と組み合わせた区（1区-2、3、2区-2、3）では慣行区（4区-1）と比較して1.4～1.9倍の伸長効果がみられた。最も伸長効果が高かったものは、9月中旬に1回の化成肥料の施用を行い、遮光ネット（シルバー）を被覆した区（2区-2）が最も草丈の伸長効果が高かった。
- 3) 寒冷紗を除去する時期が遅れ、施肥と寒冷紗の被覆を組み合わせた区（1区-2、3、2区-2、3）では葉先の折れ曲がったものや、徒長して葉が柔らかくなり葉が真上に立たないものが多く見られた。施肥のみの区では葉の軟化はみられなかった。また、寒冷紗の種類については草丈の身長効果に対する有意差はみられなかった。
- 4) 水仙切花の出荷規格を決定する花首長については2区が最も長く、出荷価格が最も高い「え」に相当する長さであった。対照区は、葉長より花首長の方が長い出荷規格外の品質であった。11月中旬から鹿により花の茎のみ食べられる被害が多く、花の調査数を確保できず、花を調査できない区があった。

3 総評及び今後について

施肥と寒冷紗の被覆を組み合わせた区において最も草丈の伸長効果が見られたが、葉先の折れや葉茎の軟化が見られた。水仙切花は、花首より葉の方が約7～10cm長いものがバランスの良い。出荷価格が高い規格である「え」は花首長が40～50cmと決められており、葉長は50～60cmが良いとされている。今回の試験において、草丈の伸長効果が高く花首長と葉長のバランスが良い切花を採花する方法として、寒冷紗の被覆は行わずに発芽初期に1回施肥を行う方法が効果的であると考えられた。しかし、今年度は9月に雨が多く11月の気温が高かったため、発芽及び生育が早まり草丈が長くなった可能性も考えられる。次年度は、今年度と同じ施肥方法で試験して方法を確立させるとともに、葉茎が硬いままその範囲内の葉長になるように寒冷紗の被覆及び除去時期についても再検討を行う。

表1. 各区の施肥及び寒冷紗の被覆方法

| 区制 | | 施肥 | | 寒冷紗 | | |
|----|---|---------------------|------------------------|----------------------------------|-------|--------|
| | | 資材名 | 時期 | 資材名 | 被覆日 | 除去日 |
| 1区 | 1 | 燐硝安加里 S604 | 9月14日と 10月1日 の2回 | 被覆無 | | |
| | 2 | | | らくら〜くネット シルバー・遮光率80% | 9月14日 | 10月15日 |
| | 3 | | | らくら〜くスーパーホワイト 遮熱タイプ・遮光率60~65% | 9月14日 | 10月15日 |
| 2区 | 1 | 燐硝安加里 S604 | 9月14日 の1回 | 被覆無 | | |
| | 2 | | | らくら〜くネット シルバー・遮光率80% | 9月14日 | 10月15日 |
| | 3 | | | らくら〜くスーパーホワイト 遮熱タイプ・遮光率60~65% | 9月14日 | 10月15日 |
| 3区 | | ハイポ ネックス (液肥) | 9月14日から 7日毎に6回 | 被覆無 | | |
| 4区 | 1 | 無施肥 | | 被覆無 | | |
| | 2 | | | らくら〜くネット シルバー・遮光率80% | 9月14日 | 10月15日 |
| | 3 | | | らくら〜くスーパーホワイト 遮熱タイプ・遮光率60~65% | 9月14日 | 10月15日 |



1区-1



1区-2



1区-3



2区-1



2区-2



2区-3



3区



4区 (対照区)



4区-1



4区-2



鹿による獣害の様子

図2. 試験区の水仙草丈及び獣害被害の様子

表 2. 葉長及び花首長の調査結果

| 区制 | | 葉長 (cm) | 花首長 (cm) |
|-----|---|------------|-------------|
| 1 区 | 1 | 46.1 | 31.5 |
| | 2 | 58.1 | 40.0 |
| | 3 | 67.4 | - |
| 2 区 | 1 | 67.8 | 47.5 |
| | 2 | 77.4 | 45.0 |
| | 3 | 63.3 | 43.5 |
| 3 区 | | 47.4 | - |
| 4 区 | 1 | 41.5 | 30.3 |
| | 2 | 47.4 | 32.0 |
| | 3 | 48.5 | 36.0 |

表 3. 越前水仙の出荷規格表

| 規格名 | 花首長 | 備考 |
|------|---------|-----------------------|
| えー 4 | 40～50cm | 4 枚葉 (はかまの長さは十分に確保する) |
| え | 40～50cm | 3 枚葉 |
| ちー 4 | 50cm 以上 | 4 枚葉 (はかまの長さは十分に確保する) |
| ち | 50cm 以上 | 3 枚葉 |
| ぜ | 35～40cm | 3 枚葉 |
| ん | 30～35cm | 3 枚葉 |
| 水 | 40cm 以上 | 赤葉、首長 |
| 仙 | 40cm 以下 | 赤葉、首長 |

- 1) 花 : 輪 3 分咲きのもの、3 輪以上付いたもの。
- 2) 葉の長さとおぼみは調和のとれたものとする。
本試験では、(葉長)-(花首長) = 7～10cm を調和のとれたものとする。
- 3) 葉先は正常なものとする。
- 4) はかまは 4cm 以上とする。長ければ長いほど良い。